

新任医師のご挨拶



よしだ・しゅういち／東北大学卒業。1997年東北大学大学院外科系整形外科に入局。2014年仙台徳洲会病院整形外科部長に就任。2020年4月、茨城リハビリテーション病院副院長に就任。

副院長
兼総合相談センター長
吉田 秀一

これをお読みになっている皆さんも、人生の転換点というものがあると思います。私も今思うと、あれがその転換点だったのかと。

私はこれまで東北大学の関連病院で整形外科医として救急・手術三昧の日々を送っていました。2007年、当時勤めていた国立病院機構仙台医療センターの院長から突然呼び出され、国の施策である大腿骨頸部骨折の地域連携パスを主催してみないかと声を掛けられました。何の気なしに承諾してしまいましたが、やがて30以上に加盟施設が膨れ上がった地域連携パスの活動を取りまとめるのがどんなに大変なことか、当時は知る由もありませんでした。しかしながら、その苦労以上に新しい発見も沢山あったことも事実です。

まず、急性期と回復期の傷病に対する考え方の違いに大きな衝撃も受けました。単独の医療施設では複雑で対応困難な事例であっても、多職種でのチーム医療を実践することで、解決できる道筋は幾らもあるのです。それまで常識であった“一人の患者を退院まで抱え込むこと”よりも、それぞれの役割を担う連携医療を地域全体で提供することで医療資源の効率化も図られますし、何より患者家族にとっても最善な手段であることもようやく理解できました。連携医療がもはや“新常態”となる中、私自身4月よりリハ医として新たなキャリアを歩み出せたことを大変嬉しく誇りに思います。

急性期医療の先生方が粉骨碎身、どれだけ大変な思いで日々診療にあたっているのか、よく理解しているつもりです。質の高いリハビリテーションを提供するのは当然のこと、どんな患者様であっても、速やかに受け入れるのが最良の連携医療ですが、残念ながら当院の受け入れ率は100%ではありません。他院の方が患者様にとって良い場合もあるからです。とは言っても、私達はこれからも努力を続け、あらゆる疾患や症例に対応できる“究極のリハビリテーション病院”と呼ばれるよう、スタッフ一同目指してゆく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



まつもと・しゅんすけ／1983年千葉大学医学部附属病院千葉県救急医療センターで研修。松戸市立病院神経内科を経て、2001年福西会川浪リハビリテーション病院院長に就任。松戸市立福祉医療センター東松戸病院、吉川中央総合病院を経て、2020年4月より茨城リハビリテーション病院院長補佐に就任。

部長（院長補佐）
松本 俊介

茨城リハビリテーション病院に2020年4月1日付で赴任いたしました。

長年脳卒中診療に携わり、脳神経内科、リハビリテーション科を標榜することが多かったのですが、前任地の吉川中央総合病院では、内科として勤務しておりました。

回復期リハビリテーション病院は、急性期治療を終えた患者様が、一定期間リハビリテーションに集中して、自宅で生活していくための準備をする場です。

効果的なリハビリテーションにより、症状の回復を、より速やかに、より高いレベルまで引き上げることを目指します。リハビリテーション医学の進歩に遅れぬよう、日々研鑽し、それぞれの患者様にとって、最良のリハビリテーションを提供するよう努力いたします。リハビリテーションは、病気を持った方に、治療として運動負荷をかけるという特徴があります。脳卒中を起こした方は、再び脳卒中を起こしやすい病態をお持ちです。骨折した方は、もともと骨が脆いため骨折を繰り返しやすい状態にあります。そのような方々に、運動負荷をかけていくわけですから、医療事故には細心の注意が必要です。このことを念頭に置き、医療安全対策に努めて参ります

回復期リハビリテーション病院にとって、入院時には急性期病院との連携が、退院時には家庭医や介護保険施設等との連携がとても重要です。世界的な新型コロナウイルス感染パンデミック後の感染症対策に伴い、人と人の交流方法が大きく変わっていくことでしょう。新たな連携、情報交換、交流の方法を模索して、地域での医療連携を大切にしていきたいと思います。

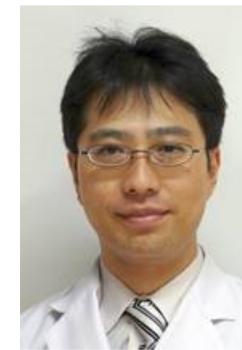
どうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



医療法人三星会 茨城リハビリテーション病院

あさやけ

morning glow



創刊のご挨拶

院長 篠田 雄一

「明けぬ夜はない」または「初めに光あれ」というように、私たちにとって朝焼けは希望であります。リハビリを受けている入院患者様だけでなく、夜勤勤務の職員、日勤に向かう職員にとっても、朝焼けは、皆の心のシンボルと思い、この広報誌を始めようと思いました。

私が医師になった時と比較し、様々な事を経験し、社会構造が変化してきたようです。また、寿命に関する考え方もQOLが意味を持ち、医療資源の差配も重要なになってきました。私自身、医師になってリハビリテーション医学に従事し、その変化に驚く事はありますが、充分に予期できたような気がします。なぜなら、私たちは様々な困難を乗り越えてきました。この事実は『FACT FULNESS』（著者;ハンス・ロスリングら）という本を読んでいただければ理解できると思います。もちろん突然の病に襲われ、その治療方法が開発されていない疾病があるのも事実です。

ですから、医療は病院における治療だけでなく、地域を包括してケアをする、社会インフラの役割もあります。特に本邦において、国民皆保険制度による医療制度は国際的にも類を見ないシステムではあります。ただ、その受給者においてはわかりにくい部分が多いと思います。その為に、病院内のMSW（メディカルソーシャルワーカー）がその窓口になっています。医療相談員とも訳される、この職業は国家資格で、患者様のみならずご家族の様々な医療制度の

不安を取り除いてくれます。当院の3つの回復期リハビリテーション病棟全てに、このMSWと病院専任の管理栄養士/療法士/リハビリ専従医が配属され、質の高いリハビリ医療を届けています。さらに、当院には、障害者病棟があり、神経難病の患者様も積極的にお受けしています。

そして、当院に勤務している全ての医師は皆、専門医です。リハビリテーション科だけでなく、整形外科/脳外科/総合内科/神経内科など、様々な専門医が勤務しています。当直医師も専門医が勤務しています。また、合併症においても皮膚科/泌尿器科の専門医が対応しています。全国のリハビリテーション病院においてもトップレベルの質とケアで患者さんを包んでいきたい所存です。



朝焼けの筑波山 撮影：三浦 裕之（当院神経内科医）

病院紹介

茨城リハビリテーション病院（旧：会田記念リハビリテーション病院）は、茨城県南部に位置する守谷市において、1983（昭和53）年に開設されたリハビリ専門病院です。2018年2月1日には、法人名と病院名が変わり、新体制で再スタートいたしました。つくばエクスプレスで秋葉原までは最短32分。アクセスにすぐれ、茨城県内はもとより、東京都・千葉県・埼玉県など広域からご来院いただいております。



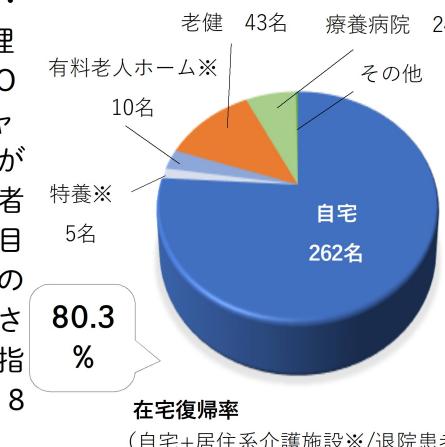
受付を中心に、1階をリニューアル。木の素材を活かした明るくナチュラルな空間に生まれ変わりました。リラックスした雰囲気の中でお待ちいただけます。

茨リハ の強み



在宅復帰率80%以上

当院では、個人の特性を考慮し、生活に密着した実効的で質の高いリハビリ＝「テーラーメイド・リハビリ」の実現を理念として掲げています。「回復期リハビリテーション病棟入院料！」の認定を取得しており、より手厚い人員体制のもと、1日最大3時間（9単位）、365日、切れ目のないリハビリを行っております。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）・ソーシャルワーカー（社会福祉士など）が“ワン・チーム”となって、患者様一人一人に向き合い、明確な目標設定を提示することで、早期の自宅復帰をめざします。おかげさまで、当院では「入院料！」の指標となる在宅復帰率7割を超え、8割を達成しております。



病棟紹介

回復期病棟と障害者病棟、それぞれの病棟の特色を活かし、一人でも多くの患者様に、適切なリハビリ機会をご提供いたします！

【施設基準と病床数】

病棟	施設基準	病床数
西館 3 階	回復期 I	36床
西館 2 階		36床
本館 3 階		47床
本館 2 階	障害者等一般	59床

▶回復期病棟の特長

当院の回復期病棟の施設基準は「入院料！」と、もつとも厳しい基準を満たしています。PT・OT・STとソーシャルワーカー（社会福祉士など）、管理栄養士の配置が義務付けられており、患者様一人あたりに対する医療スタッフの人員が充実しています。1日最大3時間の個別リハビリの実施と休日も休まず365日リハビリプログラムを提供することができます。



▶障害者病棟の特長

当院の障害者病棟の強みは、1日最大120分（入院から3か月間）の充実したリハビリが受けられることです。重度身体障がい者・神経難病患者等、リハビリが必要な患者様に適切なリハビリ機会が提供されるよう取り組んでいます。



病棟の雰囲気

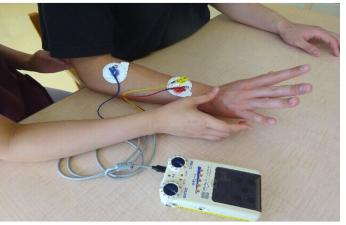
リハビリ施設



理学療法室



免荷トレッドミル



低周波治療器『PASシステム』。麻痺の改善に期待が持てます。

急性期病院

当院



関連施設

医療法人三星会では、入院リハビリテーションを終了しご自宅で生活される患者様や、地域で生活される支援が必要な方たちの生活を少しでも支えることができるよう様々な介護事業を行っています。

茨城リハビリテーション病院訪問看護ステーション

TEL 0297-48-6204 FAX 0297-48-6320

地域リハビリセンター茨城リハビリテーション病院デイケア

TEL 0297-28-7100 FAX 0297-48-6116

茨城リハビリテーション病院ケアサービス

TEL 0297-48-4660 FAX 0297-48-4660

茨城リハビリテーション病院デイサービスセンター

TEL 0297-48-6783 FAX 0297-48-6792

編集後記

創刊号はいかがだったでしょうか？まずは『茨リハ』を知っていただけるよう、病院概要をお届けしました。

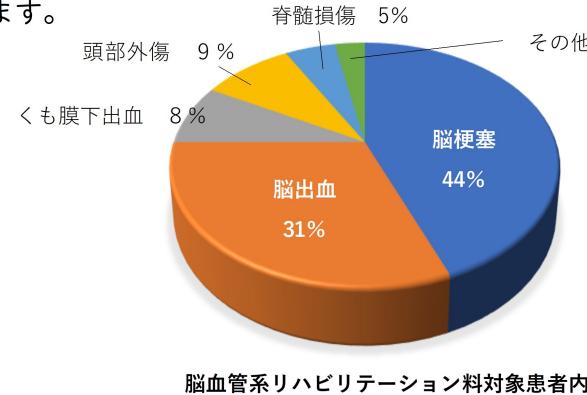
次号（秋号・年4回発行予定）からは、「どんな病棟なの？」、「どんなリハビリをやっているの？」などなど、当院をもっと知っていただけるよう細部にフォーカスしてまいります。

地域連携事務では、近隣の医療機関との連携をより一層強化していくとともに、紹介しやすい環境の整備に努めてまいります。

『あさやけ』共々よろしくお願ひいたします。

神経内科医が5名在籍

リハビリテーション科のほか、整形外科／脳外科／総合内科／神経内科など、様々な専門医が勤務し、急性期の治療を受けた患者様の受け皿としての使命を果たすべく努めています。なかでも神経内科医は5名在籍しており、パーキンソン病や多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症（ALS）といった神経難病の患者様の受け入れにも力を入れております。



手厚い人員配置

病院にとって人材は「宝」です。当院には総勢100名近くのリハビリスタッフが在籍しています。その内訳は、PTが80名、OTが35名、STが14名（2020年5月）。本年度は19名の職員が入職いたしました。

医師・看護師・リハビリスタッフ・薬剤師・管理栄養士・ソーシャルワーカーなど、患者様には多くのスタッフがかかります。当院では日頃からコミュニケーションを大切にし、多職種の連携がとりやすい環境作りを心がけています。



〈入院相談窓口〉
総合相談センター
TEL 0297-48-6111 FAX 0297-48-6083（直）
受付時間 9:00 ~ 17:00